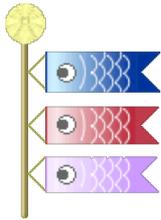


5  
May

# 俳句

( 2 0 2 3 )





た べ も の 俳 句	モ ー ロ ク 俳 句	歳 時 記 俳 句	<b>目 次</b>
10 〈	5 〈	1 〈	

< 皐月 >

早苗を植える時期「早苗月（さなえづき）」を略したもの。

耕作を意味する古語の「サ」が元になっているという説もあります。

季節：初夏（しょか） ※立夏から芒種の前日まで。

(宇佐美保幸)メール・yasuyuki.usami@gmail.com

毎日の俳句は次のブログに

巣鴨とげぬき徒然俳句

<https://blog-haiku.777usami.com>

理由なく不満不満の五月かな  
五月来る男同士の腐れ縁

牡丹活けすぐに散りけり名残かな  
白牡丹激する白は極まりて  
そこだけは豪華絢爛牡丹咲く  
叙勲など少し妬みて牡丹咲く  
牡丹咲く昭和のエロに愛がある

外来種憲法記念日池干しを  
色変える箱根空木に惑わされ

花アカシアとどかぬものが多すぎて  
改札を通る幾万立夏かな  
夏立つや未明にブログ投稿す

ポピー咲くあちこちに咲く咲き合うて  
数百万誰が数えたポピー咲く



ポピーとて数百万は倦み易し

すかんぽや昭和の記憶うすれゆく  
限界集落すかんぽ元気茂りけり

じゃがいもも花を咲かせて薄化粧  
タニウツギ嫌う風習差別あり

発想を変えて気楽に風薫る  
野茨が花を咲かせて懺悔かな

息苦しここまで一面芝桜  
田舎にも通販で来るカーネーション

朝ごとの数種の葉夏燕  
藤の花引力不要垂れ下る

赤ん坊抱いてあやして柿若葉



憶測の報道多く柿の花

子育ての投資失格茄子の苗  
板前もうわの空なり三社祭

竹林は静かに騒ぎ五月闇

赤き嘘渦巻き咲いて薔薇の花  
午後四時の紅薔薇すでに疲労かな  
反り返るされど一つに薔薇の花  
薔薇園の薔薇の嫉妬や歪め合ふ  
薔薇戦争雨に打たれて休戦す  
許されてプリンセス薔薇を接写する  
妄想が人を解放赤い薔薇

虞美人草散歩道にもそちここに  
距離感も現代女性君影草  
欺いてあえて昼咲く月見草



カラ―咲くなぜかやさしくあざむいて  
舟虫に大小ありて格差あり  
旅立ぬ絆求めててんと虫

新聞はいつも灰色青葉風  
青葉風血管うかびて風を知る

瓜の花いずれも黄色統一し  
南天の花をこぼしてにくき雨



モーロク俳句

五月その毛深さやモーロクす  
モーロクし五月のブログゆきどまり

モーロクし七十八年胡瓜咲く

モーロクしされど喜び豆ご飯  
モーロクしまだしつかりと豆ご飯  
モーロクし豆を数えて豆の飯

モーロクしされど意地あり鉄線花

モーロクしされど鼻唄菖蒲湯や  
菖蒲湯で若返りけりモーロクも

モーロクし朝晩欠伸夏来る



初夏の胸ぐるしさやモーロクし  
モーロクし大人しくして初夏に雨

モーロクしこれも幻聴ほととぎす  
モーロクし還らざるもの時鳥

モーロクし白湯甘しと葉桜や  
モーロクし後悔すべて葉桜に  
葉桜にそつとモーロク染まりけり

モーロクしされど翼を大夏野  
モーロクしすべてまぼろし薄暑光  
薄暑光モーロクするを恐れけり

モーロクし無垢には遠く薔薇の花  
モーロクし命のかけら薔薇の湯に



自己批判出来ぬモーロク薔薇の刺  
薔薇の棘モーロクすれば命取り  
自己批判すれどモーロク薔薇の棘

母の日や花よりお金モーロクし  
モーロクしこんなに弱く花茨

モーロクしモーロクの闇五月闇  
モーロクし道は険しく五月闇

モーロクし暗闇を喰い海鰻かな  
つつましく生きてモーロク十葉や

モーロクし真実誰が忍冬

モーロクし記憶も果てて忍冬

モーロクしこんがらがって忍冬

我眠るたびにモーロクじゃがの花



小満に涙も涸れてモロクす  
小満やモロクすれど爪を切る

蟻地獄待ちくたびれてモロクす  
モロクし落ちてもがくか蟻地獄  
モロクし吾の行く先蟻地獄

断捨離はモロク仕事青葉風  
怒りつつモロクすれど青嵐  
モロクし難聴進む青嵐  
モロクしスープもさびし風青し

モロクしきまぐれ雨に青芭蕉  
モロクし脱け殻ごとく青葉闇

モロクしされど人間麦の秋  
モロクしみしりみしりと麦の秋





紫蘭咲く寡黙一念モーロクス  
色慾も無くしモーロクス柚子の花  
モーロクスし夕闇静か棕櫚の花  
モーロクスし幾たび息継ぎ五月尽  
モーロクスし血圧高く五月尽



たべもの俳句

たけのこのペロンチーノ木の芽添え  
竹の子を茹でて悩みを忘れけり

竹の子を茹でて悩んで考える  
花模様タケノコ餃子しやしきしやしき

初鰹ブログ能書きマンネリ化  
薬味のせ鰹つけ井初夏の味

こどもの日年をとれども柏餅  
白飯に山形のだし初夏便り

初夏となり野菜いろいろ干し日和  
うまみがギュッ干し食材を夏日差し



夏が来てさわやかデザート日向夏

空豆は醤油で煮ても青き味

ひと椀に春色そらまめ卵とじ

そら豆を茹でてパッと塩むすび

おかひじき梅の風味で初夏の味  
牛すねを焼いて煮込んで青葉風

海鞘喰らうそれは進化か退化かな

新じゃがをパセリソテーでシンプルに  
新玉を肉のうまみの「けったん」で

鬼子母神改心すれば千団子

初夏の味ツナとアボカド冷製パスタ

鶏ごぼう五月の香り炊き込みで



黒鯛を塩焼きにして吟醸酒

青葉風青ねぎ刻みねぎ焼きを  
薬の日薬膳カレー食べにけり

初夏となり新ゴボウで豚汁を  
房総へ天下一品鱈フライ

デパ地下の新茶の試飲せわしなく  
夏めいてかき揚げ天井夕ご飯

夏浅くガパオライスに目玉焼き  
あんパンの餡は粒あん麦の秋

生ハムで包みメロンをおつまみに  
実山椒甘辛味の佃煮に  
オムライスガーデントラスの若葉風





